

令和7年度「#性別による無意識の思い込み」エピソード一覧

番号	エピソード本文
1	市外のとある児童センターで娘のオムツを交換していたら、職員の方から「旦那さんオムツ交換うまくできてますね。」と褒められた。僕はオムツ交換はもちろん、離乳食だって作るし、ピアノを弾いてあげて喜ばせたりもする。家事育児に関しては、男性というだけでハードルが下がる気がするんだよね。人間だから褒められるのはもちろん嬉しいけど、なんか複雑だ。共感できるパパさんいるかな？
2	30年ほど前。小学校でピアノを注文する時、選択肢が青とピンクの二択でした。 あたかも男子は青、女子はピンク、とでも言う様に。 納得のいかなかった当時の私は青を注文。 見事にクラスの女子で1人だけ青いピアノでした。 周囲の無意識の思い込みに抗った瞬間だったな〜と、今となっては良い思い出です。
3	息子が幼稚園の頃、「男の子なのにどうしてピンクのタオル使ってるの?変だよ!」と女の子に言われた。 ピンクが大好きだった息子、この時以来自分からピンクを選ぶことはなくなっていました。 あくまで想像ですが、その子は「ピンクは女の子らしくてかわいいね」というような事を大人から言われていたのかなと思ってしまいました。 アンコンシャス・バイアスは大人から意識を変えていかないと、子供にも簡単に伝達してしまう深刻な問題だと思います。
4	実家は飲食店でした。母子家庭だった祖母が開き、その三姉妹にお婿さんに来てもらい家族で営んでいましたが、結婚で改姓したのは父とおじ。母と叔母は「高校の同窓会で『姉妹で独身なの?!』と言われた」と笑っていました。昭和半ば、今より更に旧姓のままの女性は結婚してないものと皆が思っていたのだなと感じます。
5	同僚の男性で料理や家事が得意な方に 男性なのに家庭的ですね！と言ってしまいました。 普通に家庭的なんですね。と言う方が良かったです。男の人はあまり家事をしないと言う思い込みからの発言でした。
6	女性は夫を「主人」と言う人が多いが、そう言うからには、妻は「主人の家来か奴隷」となる。 ある友人が「私の夫が…」と話すので、こちらとしても自然に「あなたの夫さん…」と話を続けることができました。
7	「女性だから」という理由で研修や昇進の機会から遠ざけられ、急に「共働きが当たり前」と言われるようになりました。 子どもの急な体調不良や学校からの呼び出し。そんな「予測不能な家庭のこと」は、いまだに主に女性が担うものとされ、職場では「家族を頼れ」「仕事を優先しろ」と責められています。 アンコンシャスバイアスは、もはや「意識の問題」ではなく、時代の歪みを個人の努力で埋めようとする社会の構造に潜んでいると感じます。

8	男の子だから泣くな。 女の子だから大人しく。 そんな環境で育った昭和世代です。
9	ワイ女。職場の男が絶対に謝らない。 男相手には普通に謝ってるのに不思議や
10	キッチンバイトを応募し合格したのに女性はホール、男性はキッチンと分けられて男女平等を感じられなかった。
11	女性は数字に弱いと思われていて、以前、設計をしていたと言っても、設計会社で庶務をしていたと決めつけられる。
12	だいぶ前の話ですが、工業高校に通っていました。具合が悪くて保健室にいたら、たまたまやってきた生徒指導の先生に「女だからってサボるな」とビンタされました。その言葉も疑問ですが、男子生徒ならいきなり叩くことはなかったと思います。
13	自分自身を含め、よく会話の中で”普通さぁ”と言うことがあるが、そもそも「普通」とは何だろうかと思いました。この表現も、自身のものさしで決め付けている言葉なのだとハッとしました。
14	最近の小学校では、先生が生徒を呼ぶときには全員「〇〇さん」と呼ぶことが多いのだと聞きました。「君」や「ちゃん」は男女で区別をしているからということのようですね。ジェンダーニュートラル（性差に縛られない思考や行動、社会）の考えからなのかと驚きました。
15	親知らずの抜歯で訪れた歯医者さん。処置室に現れた白衣の女性を見て咄嗟に（歯科助手さんかな。）と思ったら、その方が抜歯してくれました。 女性の歯医者さんなんて珍しくないのに、親知らずの抜歯は力仕事、力仕事は男性、と無意識に思い込んでいた自分に気づかされました。